

みんなが
つながる

地域学校協働活動便り NO.2

R4. 9. 12

青森県教育庁生涯学習課地域連携推進グループ

地域学校協働活動コーディネートアドバイザー 工藤 知久子
Tel 017-734-9890 E-mail: chikuko_kudo@mx.pref.aomori.jp

令和4年度 地域との連携を担う教職員研修

今年度6地区での研修会は、無事終了しました。
ご参加頂きまして、ありがとうございました。

上北地区

日時：令和4年7月28日(木)
場所：公立小川原湖青年の家
参加者数：会場 54名
 オンライン 11名
講師：福島県本宮まゆみ小学校前校長
 安齋宏之氏

学校は夏季休業に入り、県内暑い日が続く中、文部科学省CSマイスターの安齋氏を講師に研修会が開催されました。講義では、教育課程の視覚化や合意形成の具体例など、地域とともにつくる「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組をお話いただきました。模擬熟議では、様々な校種の先生方が熱く意見交換し、参加者からは、「熟議を自校でも取り入れたい」という声が上がっていました。



西北地区

日時：令和4年7月29日(金)
場所：つがる市生涯学習交流センター松の館
参加者数：会場 36名
 オンライン 6名
講師：福島県本宮まゆみ小学校前校長
 安齋宏之氏

安齋氏には、西北地区の現状と御自身の経験を踏まえながら御講義いただきました。学校と地域が「楽しいことを考える」という基本理念を共有し、地域とともに学校づくりを進めたというお話が印象的でした。また、模擬熟議では、西北地区の特色を生かした協働活動の実践について話し合いました。参加者は「どこがやるのか、誰がどう動くのか」と、話し合いの具現化を目指した熟議を熱心に体験しました。



東青地区

日時：令和4年8月9日(火)
場所：青森県総合社会教育センター
参加者数：会場 44名
 オンライン 15名
講師：ゆめ☆まなびネット代表
 大谷裕美子氏

同じくCSマイスターの大谷氏は、学校と地域をつなぐコーディネーターとして活躍なさっている方です。講義では、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について、自転車の前輪と後輪に例えながら、それぞれの役割を分かりやすく説明してくださいました。模擬熟議では、参加者は地域と一緒にやりたいことや地域に関わってほしいことについて話し合いながら、地域と連携・協働する意義を再確認していました。



お知らせ

令和4年度 「学校と地域の連携・協働事例ハンドブック」

県では、地域学校協働本部未整備の市町村において、それぞれの実情に応じた協働本部を整備する上で参考になるように、また、県域で地域学校協働活動の充実が図られるように、「学校と地域の連携・協働事例ハンドブック」を作成します。

現在、弘前大学教育学部 越村准教授を委員長とする作成委員会を設置し、年内発行の予定で準備を進めているところです。

県内市町村が協働本部を整備するまでのプロセスや実際の協働活動の様子等、豊富な事例を掲載し、分かりやすく手に取りやすいハンドブックを目指しています。



先日、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動について、函館市の様子をうかがうことができましたので、御紹介します。

函館市ではH28年度に1校、R元年度からは全ての市立学校にコミュニティ・スクールを導入しました。また、R2年度からは、地域と学校をつなぐパイプ役として、地域コーディネーターを委嘱・配置し、地域学校協働活動の充実を図っています。今年度、市内小中高のうち23校をカバーする13本部を整備し、13名のコーディネーターが活動しています。コーディネーターは、元PTA会長、民生委員・児童委員、包括支援センター職員などで、無報酬とのことでした。

お話を伺った銭亀沢中学校の岩田校長先生は、コロナ禍でも、多方面の協力を得ながら地域と連携した活動を活発に行っているが、コーディネーターの存在で、調整等にかかる先生方の労力が違う、ということをおっしゃっていました。

